

## 平成27年度第1回広島市廃棄物処理事業審議会 会議要旨

### 1 日時

平成27年11月13日（金） 午前10時～正午

### 2 場所

広島市中区役所3階第2・3会議室

### 3 出席委員

今岡 務（会長）、川本 季子（副会長）、伊藤 圭子、小田 豊一、佐々木 緑、下村 純一、寒川 起佳、田畑 隆行、滝脇 繁樹、月村 佳子、天玉 朝子（委員13名中11名出席）

### 4 次第

(1) 開会

(2) 環境局長挨拶

(3) 議事

報告 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に基づく施策の実施状況等について

(4) 閉会

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴人の人数

0名

### 7 会議資料名

- ・資料1 本市におけるごみ排出量等（平成26年度）及び推移
- ・資料2 可燃ごみ組成分析調査結果（平成27年度）
- ・資料3 ごみの減量・リサイクルに関するアンケート調査結果（中間速報）
- ・資料4 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況（平成27年度上半期）
- ・資料5 食品ロスの削減量等の減量・資源化施策
- ・資料6 ごみ置き場のステーション化による収集運搬の効率化
- ・参考資料 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（平成27年3月策定）

8 会議要旨

発言者	発言要旨
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の議事は、報告事項として、広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に基づく施策の実施状況についてである。</li> <li>・まずは、事務局から説明していただき、その後、委員の皆様から御意見・御質問等をいただきたいと思う。</li> </ul>
環境政策課長	【資料1～4について説明】
業務第一課指導担当課長代理	【資料5について説明】
業務第一課長	【資料6について説明】
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ今、事務局から資料について説明いただいたが、これらについて御質問・御意見等があればお願いします。</li> </ul>
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、本市で排出されるごみは生ごみが最も多かったと思う。最近、紙類が増えてきた主要な理由というのはあるのか。</li> </ul>
業務第一課指導担当課長代理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会経済的な背景等については、正確なところを把握していないためにお答えは出来ないが、現場で事業所の排出指導に当たっている担当者からも、資料2にもある再生可能な紙箱が多量に混入している指定袋が、相当工場に搬入されている実態があると聞いている。こうした状況を踏まえ、現在、紙箱の多量排出者である処方箋薬局を中心に、資源ルートで排出していただくよう指導を行っているところである。</li> </ul>
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3点質問とお願いをさせていただきたい。</li> <li>・1点目に、平成26年度の事業ごみのうち、手つかず食品の割合が、資料5では5%、資料2では4.9%とある。しかし、平成27年度は9.3%とかなり多くなっているが、これは何が原因なのか。</li> <li>・2点目に、資料5の食品ロスの4番目に、バラ売り等の促進とある。小分けして売っていただくと、少人数の家族の場合は大変助かるが、にんじん1本がトレイに乗せられてきれいに包装されるなど、かえってごみが増えるという状況もある。この点に関して、スーパーマーケット等の事業者に指導しているのか。</li> <li>・3点目として、資料5右側の17番目に、給食実施小中学校や食育推進会議等に働きかけを行っているということだが、小中高の家庭科という教科では、生活者の及び科学的な観点から、系統的に環境教育やごみ問題に関しても学べるように学習を行っている。この家庭科の中でごみ削減の働きかけを行うことを、教育委員会に要望することは出来るのか。</li> </ul>
業務第一課指導担当課長代理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1点目の、今年度の組成分析では、事業系ごみのうち、手つかず食品の数値が非常に伸びているという御指摘については、一般廃棄物として排出される手つかず食品の代表的なものの一つとして、流通段階に乗った売れ残り在庫が挙げられると思われる。先程の紙ごみと同様に、社会経済的な増加要因を十分につかんでいないため、今年度数値が伸びた理由を御説明することは出来ないが、今後、食品メーカーや食品卸等に対し、売れ残りの在庫等のフードバンクへの提供等の依頼を行うことを検討している。また、そのような機会を通じて、実態把握にも努めていきたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2点目として、バラ売りの促進によって、かえってトレイ等のごみが出る結果になるのではないかという御意見があった。多くのスーパーマーケットに加入していただいているごみ減量・リサイクル実行委員会等へ、貴重な御意見として御紹介したい。</li> <li>・3点目に、家庭科の中での働きかけという御意見をいただいた。次代を担う生徒さんに、ごみ減量等の意識をもっていただくというのは非常に大切なことだと考えているため、現状を把握した上で、関係課とも協議しながら進めていきたい。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の質問内容に対する意見だが、資料2における事業系の生ごみのうち、手つかず食品が4.9%から9.3%に伸びているということであった。これについては、50kgというサンプルの中に、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等の事業者から排出されるごみが入ると、数値的に変わってくる可能性もあると思う。この点については、データの継続性とサンプル量をどのように考えるかも含めて、検討していただきたい。数値的には倍近く増えているように見えてしまうが、この組成分析の場合、4台の収集車から50kgのサンプルを取るということで、そういった事業者のごみが入ってきた場合には、数値にイレギュラーさが出てくる可能性もある。そのあたりは整理をしておいていただきたい。</li> </ul>
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先程、バラ売りについて、にんじんがパックに入っているのではないかという御意見があった。玉ねぎやにんじん、オクラなどは、ネットに入ったものがさらにトレイに入っているものも多くあるため、そういうものを極力減らし、あくまで包装をしないバラ売りを増やす努力を続けている。ずいぶん徹底していただいているが、今後も継続して啓発を進めていくので、にんじん1本がトレイに入っているというイメージではなく、バラ売りが多くされているという御理解をいただければ、広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会の委員長として、私もありがたいと思う。また会議の中で検討して整理したい。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市は事業者に指導する際は、そういった内容を含めてお願いしているのか。</li> </ul>
業務第一課指導担当課長代理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川本副会長が委員長を務められるごみ減量・リサイクル実行委員会には、市内の主要なスーパーマーケットや百貨店が加入されていることから、事業者へお願いすることが可能である。</li> </ul>
小田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近、日帰り旅行で道の駅が一つの買い物のポイントになっており、多くの主婦が新鮮な地産野菜をそこで買って帰っている。</li> <li>・都市部のスーパーマーケットでも、値段を三段階から四段階くらいに時間置きに変えている。生食品については、最後の方になると鮮度が落ちており、こういったものは、おそらく廃棄物に入っているのではないか。また、スーパーマーケットや百貨店によっては、全く食べられない野菜を置いているところはかなりある。こういった店は、ほとんど廃棄していると思われる。</li> </ul>
下村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみの中で、手つかず食品等が増えてきているのは、オーバーストアも一つの原因であると思う。これは環境局と関係がないかもしれないが、佐伯区の石内にも今度大きなスーパーマーケットが出来ると、そこからはまた莫大な量のごみが出てくる。このようなことから、各スーパーマーケット及びコンビニエンスストアにおける生ごみの有効な利用方法を、環境局として通達等の要求を出してはどうか。</li> <li>・家庭ごみの収集等に係るボックスの取り扱いについては、町内会での動きになる。今、</li> </ul>

	町内会が衰退している。これも局が違うのかもしれないが、加入促進条例を検討すべきだと考える。住民に町内会に加入していただいて、その町内の皆で、「ごみはどうする」という動きを作らなければ、一部の方に偏ってしまって、非常に苦勞されているところもあると思う。これは町内会だけではなく、様々な組織全般に、そういった加入促進条例というようなことも、市として検討してはどうか。
業務第一課指導担当課長代理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみの増加について、オーバーストアが原因ではないかという御意見であった。スーパーマーケット、コンビニエンスストア等から出される手つかず食品の有効活用策の一つとしては、一般的には食品リサイクルによる資源化が挙げられる。資料4でも説明申し上げたとおり、今後、潜在化している民間事業者のリサイクルのビジネスモデルの熟度が高まり、顕在してくれば、市内の食品リサイクル施設誕生に向けて、行政としても、処分業の許可の準備を検討する必要が生じるかもしれない。</li> </ul>
業務第一課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみボックスの設置に関して、町内会での動きについて御意見をいただいた。御指摘のように、近年、町内会に加入していないことを理由として、ごみ置き場を使えないという事例もあると聞いている。市としては、町内会とごみの排出などの生活に密接した活動が、必ずしも結びつくものではないという考えもある。ごみの問題については、町内会への加入の有無とは別に、地域コミュニティの活性化というのも一つの視点として必要ではないか。</li> <li>・町内会への加入促進条例などを考えてはどうかという御意見については、市としても町内会の有用性は認識しているところであり、貴重な御意見として担当局に伝えたい。</li> </ul>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の御意見について、今後の社会的な問題として、高齢化などが意識され始めているところであるが、そういった問題に対しても、町内会の役割というのは非常に大きいのではないかと。単なるごみ排出だけの問題ではないものもあるだろうが、地域の諸問題の解決について、ごみ問題がきっかけになるということも考えられる。担当部署との連携・協力を図っていただきたい。</li> </ul>
滝島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1の右側で、ごみの埋立量が増加しており、その原因は、平成23年の中工場の灰溶融設備の火災事故によるということであった。これについては、復旧等の対策はあるか。</li> </ul>
施設課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年に火災事故があり、灰溶融スラグ化事業について再検証したところ、年間7億もの経費が掛かっており、非常にコストパフォーマンスが悪いということがあった。また、作られたスラグが有効に活用されていないということもあり、灰溶融炉の廃止について国の方に届け出て、当該設備についてはすでに廃止している。</li> <li>・灰溶融炉については、一時、国の指導もあって全国的に作られたが、先程申し上げたようなコストパフォーマンスやスラグの有効活用についての問題を抱えており、全国的にも廃止の動きである。</li> </ul>
月村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月6日に、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会が主催し、3Rのことを考えようという大会が福山で開催された。当該協議会から、是非勉強会に来てくださいと案内があり、広島市地域女性団体連絡協議会として出席した。そのときに、福山の女性会の方や環境局の方とふれあう機会があり、そこで福山市では、各諸団体に案内を出し、バスをチャーターして、年間800人の方を環境勉強に招待されているという話を伺い、大変羨ましく感じた。</li> </ul>

	<p>・会合では、担当者に分かれて勉強させていただいたが、ペットボトルが非常に効率の良い再生になっているということであった。ペットボトルは、衣服や公園の木の囲いなど、非常に多くのものに再生されているということも伺った。また、汚れたペットボトルは出さないで欲しいということを言われた。少し汚れていても、全部再生できなくなってしまうそうだ。広島市でも、そういった再生できる汚れの度合いについて、地域に密着して教えて欲しい。</p> <p>・福山市は、エフピコ等の再生産を行っている事業者の工場が多いため、多くの企業が参加していた。市民と企業と環境局、それからこのプラスチック容器包装リサイクル推進協議会が一緒になって、いろんなことを勉強させていただいた。本日は、消費者協会の方もいらしているので、このような取り組みについても、一緒に勉強させていただく機会があれば思う。</p>
業務第一課長	<p>・ペットボトルについては、平成16年から正式に全市で収集を始めた。排出方法については、ふたを外し、ラベルをはがし、軽く中を濯いで、潰して排出していただくようお願いをしている。このペットボトルについては、御意見にあったように、日本容器包装リサイクル協会と委託契約をして、再処理委託業者に運び、フレーク状又はチップ化して再生に回しているが、毎年1回、各自自治体のペットボトルやリサイクルプラの品質度合、どのくらいきれいに分別基準に適合した形で出しているか確かめる検査がある。広島市の場合は、ペットボトルについては、毎年最高ランクをいただいている。これについては、本当に市民の皆様の御協力の賜物だと考えている。今後とも、機会のあるごとに市民の方々に排出方法について周知を徹底していきたい。</p>
月村委員	<p>・ペットボトルのふたを集めている学校等の諸団体がある。先程申し上げた大会で、そこから予防接種等の寄付を送っていた業者が潰れたという話を聞いた。このことについて、市は把握しているのか。今、小学校や中学校でもペットボトルのふたを回収しているが、今はその業者に出さないようにしているという話も聞いたことがある。そういう情報は、市民の方に伝えてもらいたい。</p>
業務第一課長	<p>・ペットボトルのふたを集めて、ワクチンを発展途上国に送る活動をしている業者がある。その中で、ある有名な業者が不適正な整理をしていたという事例があった。ただ、ペットボトルのふたは、単一素材として非常に再生に適したものであると言われており、そういった活動をしているのはその業者だけではない。毎年6月初旬に、当局が実施するごみゼログリーンウォークという活動があり、今年は被爆70周年記念事業という意味も踏まえ、参加者にペットボトルのふたを集めていただき、適正な支援をする団体に送った事例もある。</p> <p>・学校等への情報提供については、教育委員会へ適正な情報をつかんでいるか確認したい。</p>
川本副会長	<p>・先程、月村委員からプラスチックの勉強会という御意見があったが、ごみ減量・リサイクル実行委員会として、私たちも、店頭でトレイの回収ボックスを置いていただいて以来、エフピコとは親しくさせていただいている。トレイなどは店頭回収で持ってきてもらわなければ、材料が足りず、再資源化が出来ないということであった。ごみ減量・リサイクル実行委員会の活動の中でも、トレイ等については、洗って戻して資源化できるような形にするよう、事業者にも協力いただいている。プラスチック容器包装リサイ</p>

	<p>クル推進協議会やエフピコ等が取り組んでいるような、環境勉強は大切なことだと思う。今後も、ごみ減量・リサイクル実行委員会等を通じて、市民団体として協力し、市民の皆さんに広報していきたい。</p> <p>・この10月に、岡山のサービスエリアで、ペットボトルのふたとペットボトル本体を分けるための新しい回収ボックスが設置されていた。韓国語と中国語の表記のある回収ボックスになっていた。最近は外国の方も多いため、サービスエリア自体も新しく変わってくるということを再認識した。またこういったことについても、機会があれば広報し、再資源化につながるようにしていきたい。</p>
今岡会長	<p>・御意見にあった啓発活動や分別の周知方法等については、また御検討いただきたい。</p> <p>・本日欠席されている粟屋委員からの御意見が届いているので、事務局から御報告いただきたい。</p>
環境政策課長	<p>・本日御欠席の粟屋委員から御意見をいただいたので、御報告させていただく。</p> <p>・資料1について、市としての努力により、ごみ排出量が概ね横ばいであることは素晴らしい。今後は量の削減よりは、収集したごみをいかに有価物化するかということに注力してはいかかが。埋立量、焼却量をいかに資源化するか、経済性との兼ね合いになるだろうが、今後の検討課題にしていきたい。</p> <p>・資料4について、食品ロスの対策は重要であり、継続してほしい。レジ袋の無料配布は、環境対策の啓発という目的は達したと思われる。レジ袋よりも小型家電のリサイクルの推進の方が都市鉱山の有効活用に貢献できると思われる。</p> <p>・資料6について、価値観の変化に伴い、町内会のあり方も変化している。よって、ごみの収集に際し、町内会ありきの想定ではなく、もう少し柔軟に対応できる体制をお願いしたい。</p>
今岡会長	<p>・この粟屋委員の御意見について、事務局から意見等はあるか。</p>
環境政策課長	<p>・粟屋委員の御意見・御質問について、事務局から回答させていただく。</p> <p>・資料1については、今後の検討課題とさせていただきたい。</p> <p>・資料4の小型家電のリサイクルの推進については、今年度、計画では民間事業者による取組の促進を図ることとしていたが、リサイクルをより進めていくため、今後は行政が主体となって実施することも検討していく必要があると考えている。</p>
業務第一課長	<p>・資料6については、価値観の変化に伴い、町内会のあり方も変化しているため、ごみの収集に際しても、町内会ありきの想定ではなく、もっと柔軟に対応できる体制が必要ではないかという御意見であった。広島市の場合、これまでごみボックスやごみシートなどのごみステーション管理用具の公有管理については、町内会や地域の団体が中心として行ってきた歴史的経緯がある。そのため、町内会等の地域の団体に入っていない方には、ごみのネットを使わせないというようなトラブルがあるということも耳に入っている。しかしながら、家庭ごみの排出・収集については、日々行われることであり、例えば、ごみの排出場所や排出時間、悪臭の発生などの問題に関しては、ごみを排出する方々の間で話し合いの場を持っていただく必要があり、地域コミュニティの存在が必要不可欠である。そういった意味も含め、今回のごみにニティ活動支援事業を掲げさせていただいた。粟屋委員からは、町内や町内会ありきではなく、という御意見ではあったが、ごみの問題については、近所付き合いが必要不可欠であり、話し合いを持つきっかけ</p>

	<p>けを作っていたということも視野に入れた補助制度でもある。そういった話し合いを通じて、地域コミュニティが活性化することによって、地域でのごみニティの活性化、ひいては町内会・自治会への加入率の増加にもつながればという思いも、この事業のスタートには考えたところである。粟屋委員の御意見では、もう少し柔軟な対応ができる体制が必要ではないかということで、ごみステーション方式以外の回収手段としては、戸別収集が考えられるが、戸別収集ではどうしてもごみ収集効率が低下する。本市としては、今後もステーション収集を基本とした家庭ごみの収集を続けていきたい。一方で、町内会の有用性もあるため、家庭ごみの排出の問題への取組を一つのきっかけとして、地域の活性化や町内会への加入促進につながればという考えで、この事業に取り組んでいる。</p>
<p>今岡会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料6の左側の(3)で、地域環境指導員によるごみ排出の適正化指導等の地域活動支援を検討しているとのことだが、活動内容として、ごみステーションや町内会の援助についても対応できるように、少し窓口を広げることも御検討いただきたい。</li> <li>・小型家電の問題は、以前、広島市でもゼロエミッションシティ推進協議会で検討しており、不燃物の分別区分を分けるということも考えていた。しかし、量が集まらないのではないかという意見もあった。先程、粟屋委員が御意見の中で「都市鉱山」という言い方をされていたが、都市鉱山的なレアメタルについては、収集された小型家電からは量的には集まらないのではないか。</li> <li>・小型家電の回収については、収集、分別、運搬も含めたコストが見合うかどうかとも難しいところである。コストを下げる方法で回収が出来、分別、収集についても純度を上げていけるような方法が整理出来ればと思う。広島県の中でも、東広島市や呉市で、回収箱を設置して、どの程度回収できるかモデルケースを行ったことがある。回収箱を置いた当初はかなりの量が集まるが、長期的に続くと、だんだん家庭での在庫もなくなってくる。そういった量の把握も難しいところがあるし、効率的なものもあろうかと思う。</li> <li>・アンケート結果の中で、現行の8種類分別に小型家電という区分を加えて排出することに対して、賛成する方はあまり多くなかった。市としては、現行どおり不燃物として回収し、その後どうやって分別するかということを検討していくことになるのではないか。</li> </ul>
<p>川本副会長</p>	<p>・先日10月に平林金属へ見学に伺った。家電リサイクルを行っている業者であり、小型家電もたくさん来ていた。小型家電の中には資源がたくさん眠っているということで、私たちが5、6年前に伺ったときよりも大変進んでいた。使用済み小型家電を活用すれば、レアメタルについても、輸入しなくて済む程の資源がたくさん眠っているということと、量については多くは排出されていないけれど、上手く循環して再資源化されるようになれば日本の為になるということであった。洗濯機や、最近では液晶の大型テレビとかも排出されてきているようで、もうこのようなものがたくさん出回っているのかと思った。今は家電販売業者の所に回収ボックスを置いて回収するということがだが、これからは色々なことを考えていかなければならない時代だと思う。まずモデル回収等を行い、それが固定化していけば日本の為になるのであれば、協力していきたい。</p>
<p>今岡会長</p>	<p>・福山市でも、今エディオンが小型家電回収事業を始めている。きちんと集まってくれば、それなりの量が回収でき、事業として成立していくと考える。川本副会長の御意見</p>

	<p>にもあった平林金属や廿日市市の安田金属などの事業者は小型家電リサイクル事業を実施しているので、そういった事業者とどううまく連携していくかということが鍵になると思う。</p>
下村委員	<p>・このような会議に出席すると、資料関係の紙類が非常に多い。事業所の排出する紙ごみの中で、市役所の占める割合というのは非常に高いのではないか。例えば裏面に印刷するなどして、枚数をとにかく減らしていただきたい。本審議会だけでも紙の排出量を少なくする算段を考えていただきたい。</p>
小田委員	<p>・私自身も高齢となり、今、亡くなった母の持ち物を整理している。服については、家庭ごみとして出す場合と、業者をお願いする場合とを分けている。母親が使っていた家庭用のちゃぶ台など、大事にしていたものについても、一応ごみとして排出することにしたが、昔の建物なので、上の階から降ろすのに大変苦労している。こういったごみについては、広島市で年間どのくらいの量があるのか。今後は、こういった市民も増えてくるのではないかと思う。</p>
業務第一課指導担当課長代理	<p>・過去5年間における、大型ごみの排出量の推移は、平成22年度が6,621t、平成23年度が6,867t、平成24年度が7,079t、平成25年度が7,623t、そして平成26年度が7,948tとなっている。御指摘のとおり、近年増加傾向にある。この理由について、直接分析するのは困難であるが、例えば景気の動向や、消費税が上がる前の駆け込み排出等、色々な要因があろうかと思う。</p> <p>・ごみ減量の観点からは、リサイクルショップに出していただいたり、近所の方や親戚の方の中で有効活用できるものについてはしてもらう様に働きかけをしていきたい。</p> <p>・大型ごみの排出が難しい場合は、一定の条件はあるが、家の中までごみ排出をお手伝いする事業も行っているので、お気軽に御相談いただきたい。</p>
今岡会長	<p>・会議資料の紙の減量については、大学でもipadで資料を見るというような事を始めようとしている。今回のように両面印刷するなどの工夫をして、率先して削減をしていく必要があると思う。是非、何かいい方法があれば御検討いただきたい。</p> <p>・現在、その他プラを可燃ごみに統合するという方向について議論がされていると思うが、その点について、何か委員から御意見があれば伺いたい。プラスチックを燃やすことに関しては、市民の方も若干抵抗が残っているのではないかとと思う。</p>
天玉委員	<p>・その他プラを別回収しているのは、非常にありがたいことだと思っている。例えば、リサイクルプラとして出そうと思っても、きれいにしないと出せない。洗っても落ちないものというのは結構ある。その場合は、その他プラで回収してもらえる方が、出す側としてはありがたい。是非、これは広く市民の方に伝えていただきたい。</p> <p>・逆に、その他プラとは何かという意見も多いと思うので、その辺りも含めて、広く周知していただきたい。</p>
今岡会長	<p>・そういった御意見も割合としては多いと思う。リサイクルに回すべきリサイクルプラを、どのように市民の方に周知をして出していただくかということが問題になると思う。組成調査を見ると、広島市の方は非常にきちんと分別をされているので、あまりそういった心配はないと思うが。</p>
川本副会長	<p>・今の御意見だが、私たちもごみ減量・リサイクル実行委員会として、ドレッシングの容器について、料金を変えるなどして、ふたが外れるものを作っていただくように要望</p>



	<p>している。事業者の中にも、きれいに洗って出すためには、底が外れるように工夫するなど、考えてくださっている事業者も増えてきている。容器の区分けが出来ればより分別もしやすいと思う。ごみ減量・リサイクル実行委員会として、そういった声掛けをもっとしていきたいと考えている。</p>
<p>今岡会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メーカーにご協力いただくことも必要だと思う。</li> <li>・本日の資料について、またお気づきの点等があれば事務局の方へ御連絡・御質問いただければと思う。</li> <li>・予定した議事は以上である。</li> </ul>